

平成30年度「大学教員の企業現場研修」の実施経過報告

第1回 「日本電気株式会社」

1. 研修テーマ : 社会価値創造企業における人材育成・人財確保を現場で学ぶ
2. 研修目的 : 本研修では、社会に貢献し、新たな価値を社会とともに創造していくNECの技術開発やグローバル展開、それを支える人材育成について紹介します。また、若手社員との交流を通じて大学教育に求められる学びについて考えるきっかけづくりとします。
3. 研修企業 : 日本電気株式会社
4. 開催時期 : 平成31年2月7日(木) 13:30~17:30 (13:00受付開始)
5. 開催場所 : NEC本社ビル
6. 参加者数 : 16名
7. 参加費 : 無料

プログラム

13:30 事業の概要紹介

日本電気株式会社の会社概要・事業等について紹介します

13:55 ICT活用事例の紹介

- (1) NECは国内だけではなく海外へもソリューションを展開しています。その中から、効果的な授業を実現するソリューションを企画・提案し、実際に海外の大学で導入頂いた事例などをご紹介します。
- (2) NECでは様々な技術を研究・開発を行い、その技術を用いたサービスを社会に提供していますが、その中からAIを用いたサービスについて紹介します。単なるデータの見える化だけでなく、分析結果を活用することで新しい価値を提供する取り組みを紹介します。

社員教育制度の紹介

セルフディベロップメント(自らの意思で自らの能力開発をはかるという考え方)を基本に、事業に貢献する人材づくりを目指し、「事業遂行力の強化」「プロフェッショナル人材の育成」「マネジメント人材の育成」を人材開発の3つの柱として、社会にイノベーションをもたらす、常に成長し続ける人材を育成するNECの社員教育制度や、NECグループが常に意識し大切にしている「人財哲学」について紹介し、意見交換を行います。

若手社員との意見交換(大学での学びについて)

社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うことや、大学時代に役立った経験や授業について、若手社員から発表し、意見交換を行います。

17:30 終了

8. 実施結果

研修終了後のアンケートでは、ほぼ全員が本研修を「他の教員にも紹介したい」、「授業に役立つ」であった。

[特徴的な意見]

- ① 企業が求める人材能力や素養が良くわかり、学生指導に活かしたい。また企業は社員の人材育成に様々なプログラムやキャリアパスを設け、いかに社員の成長を重視しているかがわかった。
- ② 企業の視点で大学教育を考える良い機会となり、刺激を受けた。企業が先進的な取り組みを行っているのに大学はうまく取り入れていない。大学は、組織文化や運営を改めなければならないのではないかと思った。
- ③ 大学教員は、教育改善のために視野を学外の社会にも向け、教育力とモチベーションを高く持つことが重要と思う。また、大学教育にもっとICTを活用する必要があり、授業の進め方や取り組みなど教員自身の変化も必要と思う。
- ④ 若手社員から大学で役に立った経験として、その場で考えさせ発言を求める授業が紹介され、非常に参考になった。



(研修 ・ 若手社員との意見交換風景)

第2回 「株式会社日立製作所」

1. 研修テーマ：社会・産業の課題を解決する最先端ICT活用事例の紹介
2. 研修目的：デジタル化やIoTの進展により、社会・産業構造は急激に変化しています。本研修では、日立の推進する社会イノベーション事業が、社会・産業の課題解決にどのように貢献しているか、事例を用いて紹介します。また、日立の求める人財像と採用戦略を紹介するとともに、若手社員を交え、社会人としての視点から、大学教育に求められる事を整理し、今後の教育の参考として頂く為の意見交換を行います。
3. 研修企業：株式会社日立製作所
4. 開催日時：平成31年2月28日（木） 13:30～17:00
5. 開催場所：株式会社日立製作所 ハーモニアス・コンピテンス・センター
〒108-0075
東京都港区港南2丁目16番1号 品川イーストワンタワー13階
6. 参加者数：25名
7. 参加費：無料

プログラム

- 13:30 **事業の概要紹介**
日立グループが展開する社会イノベーション事業に関する事業フィールドや事業戦略について紹介します。また、求める人財像の紹介や、採用面での取組み、入社後の人材育成など、採用・育成戦略について紹介します。
- 14:30 **最先端ICT活用事例の紹介**
日立はさまざまな事業領域のお客さまとともに、次の社会に向け、新しい価値を創出する「デジタルイノベーション」に取り組んでいます。そのために日立がご提案をしているのが「Lumada」です。この「Lumada」を、さまざまな分野のお客さまとの協創で迅速に活用するために、ユースケースとして、業種・業務のノウハウや知見を凝縮・蓄積し、社会・産業の課題解決に繋がる提案を続けて来ています。今回は、ユースケースの一例を交えて「Lumada」の取組みをご紹介します。
- 16:00 **若手社員との意見交換（大学での学びについて）**
若手社員より、大学時代に経験しておきたかったことや役立ったことなど自身の大学生活の振り返りと、社会人としての経験から感じた大学教育において必要だと考えられることについて意見交換を行います。
- 17:00 終了

8. 実施結果

研修終了後のアンケートでは、本研修を全員が「他の教員にも紹介したい」、9割以上が「授業に役立つ」であった。
〔特徴的な意見〕

- ① 若手社員から、能動的学修やグローバル社会で通じる教養教育、コミュニケーション能力に力を入れて欲しいことが紹介され、その必要性を感じた。このためには教員の教育力の変革が必要ではないかと思う。
- ② 企業でも大学のPBL教育と同様の取組みがなされており、大学教育においても失敗を恐れずチャレンジする体験や、主体的な行動力、学んだ知識を活用する実践力を教育する必要性を感じた。
- ③ 文系・理系に関係なくデータサイエンスの力を身に付けさせる教育が必要なことを強く感じた。
- ④ 大学教育に社会(企業・地域)との連携教育が不可欠であり、大学として積極的に外部と連携していく取組みの必要性を強く感じた。



(研修 ・ 若手社員との意見交換風景)

第3回 「日本ヒューレット・パッカー株式会社」

1. 研修テーマ： 働き方改革先進企業における働き方の多様化と求められる人材の把握
2. 研修目的： 本研修ではグローバル企業である日本ヒューレット・パッカーにおける働き方の多様化について、実際の現場と人をご覧いただきます。また、働き方の多様化が進むグローバル企業に求められる人材についてのご紹介、更に実際に働く社員と意見交換をしていただくことにより、今後の大学教育のあり方を考える参考としていただくことを目的とします。
3. 研修企業： 日本ヒューレット・パッカー株式会社
4. 開催日時： 平成31年3月1日（金）13:30～17:30
5. 開催場所： 日本ヒューレット・パッカー株式会社 東京都江東区大島2丁目2番1号
6. 参加者数： 23名
7. 参加費： 無料

プログラム

13:30 日本ヒューレット・パッカーにおけるテレワークの実態と働き方改革

日本ヒューレット・パッカーの事業内容と弊社で実施されている働き方改革について、労働環境の改善、業務効率化のための働き方、人事制度、ICTの観点から活取組んでいるポイントを交えて紹介し意見交換を行います。また、ICT機器を活用した働き方改革の実施事例を紹介いたします。

14:00 働き方改革実施における人事制度と社員教育制度の紹介

日本ヒューレット・パッカーにおける、人事制度、社員教育制度の考え方と実施内容、求める人材について紹介し意見交換を行います。

15:40 オフィスツアー

社員の労働環境や、働き方改革を支えるファシリティについて、実際の現場を見ていただきながら紹介し意見交換します。

16:20 若手社員との意見交換（大学での学びについて）

入社1～5年目の社員と「大学時代の授業・経験が現在役に立っていること」や、「大学時代に学修しておくべきだったと思う点」、大学に対して望みたいことなどについて発表し、意見交換を行います。

17:30 終了

8. 実施結果

研修後のアンケートでは、参加者のほぼ全員が本研修を「他の教員にも紹介したい」、「授業に役立つ」であった。

[特徴的な意見]

- ① これからの企業の形態や「働き方改革」への取り組みのイメージが明確に認識できた。大学教育では、学生に自律的で自立した教育が必要であると思う。教員はそのための時間と手間をかけることが必要であり、学生にはチームで課題に取り組みせ、少し無理をさせる、失敗を経験させる機会を設ける必要性があると感じた。
- ② 学生はインターシップなどで企業現場に接する機会があるが、教員は古い情報のまま学生を指導している可能性がある。教員こそ常に外に向けてアンテナを張り、学んでいく必要があると感じた。
- ③ 若手社員とのディスカッションではPBL学修によるチームワークと課題発表の経験が現在の仕事に役立っていることが紹介された。自らの授業に活かして行きたい。



(研修 ・ 若手社員との意見交換風景)

第4回 「富士通株式会社」

1. 研修テーマ : デジタル社会をささえる HumanCentric な ICT 活用
2. 研修目的 : AI、ビッグデータ、IoT など最新技術の実用化が近年一層進展し、実社会へと急速に浸透し始めています。このように急速に変化する社会に於いて、実際に現実の課題を解決しながら活躍出来る人材、それに取り組む ICT 企業の活動について実例を元紹介します。また、ICT 業界で、高い専門性をもって活躍する人材の育成に向けた社員教育制度の紹介や若手社員との交流も交えて、企業の求める人材と大学教育について意見交換を行い、大学教育について改めて考えるきっかけづくりとします。
3. 研修企業 : 富士通株式会社
4. 開催日時 : 平成31年3月7日(木) 13:00~17:00
5. 開催場所 : デジタル・トランスフォーメーション・センター (世界貿易センタービル 30階)
東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル
6. 参加者数 : 16名
7. 参加費 : 無料

プログラム

13:00 富士通における人材育成への取り組み

富士通の事業概要をはじめ、社会の変化に対応可能な人材育成体系の紹介と、大学で身につけて欲しい基礎知識、能力等について意見交換を行います。

14:00 ICT先進活用事例のご紹介

デジタル革新で未来を先取りするAIをテーマに最先端のAI活用事例として、これまでの不可能を可能とする富士通の最新解析技術「デジタルアニーラ」がもたらす社会的インパクトなどについてご紹介します。合わせてこれからの社会で活躍するAI活用人材について考察します。

15:10 最先端ソリューション展示ご紹介

富士通のテクノロジーが社会やビジネスの現場でどのようにデジタル革新に活用されているかを様々な製品、ソリューションと共にご紹介します。

16:00 若手社員との意見交換(大学での学びについて)

社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代に役立った経験・授業はどのようなことだったか、大学に対して望みたいことなどについて発表し、意見交換を行います。

17:00 終了

8. 実施結果

研修終了後のアンケートでは、ほぼ全員が本研修を「他の教員にも紹介したい」、「授業に役立つ」であった。

[特徴的な意見]

- ① 企業がどのような人材を求めているのかを理解することができ、具体的に学生に示せそうだ。学生には1年の時から企業の考えに触れる機会を設ける必要があると思った。
- ② 社会での体験知はアルバイトやインターンシップなどで学生の方が多く体得しており、理論知しかない教員が社会人基礎力を講じることのギャップや認識の誤りがあるかも知れないと感じ、改善の必要を体感した。
- ③ 若手社員から大学への要望として出された、主体的で自由な学びへの支援(必修科目の削減・他学部他学科の受講の自由化)に賛同する。大学にとって大きな課題と思う。大学にとって基礎教育と積極的な意欲を持った学生の育成が大切であることを再認識した。



(研修 ・ 若手社員との意見交換風景)

第5回 「株式会社内田洋行」

1. 研修テーマ： **第4次産業革命に向けた情報の価値創造と ICT 人材育成の取り組み**
2. 研修目的： ICTの発達により様々な活動がデジタル化し、ビッグデータを分析・活用することにより、新たな価値創造が生まれています。また、AIにビッグデータを与えることにより、単なる情報解析だけでなく、様々な社会問題等の解決に資することが期待されております。今回の研修では、「大学入学共通テスト」で開始される Computer Based Testing (CBT) に関する実証研究や「全国学力・学習状況調査事業(中学校)及び予備調査事業」を事例に、教育におけるビッグデータ活用の可能性について紹介します。また、企業の求める人材像を共有するため ICT のシステム構築に関わる若手社員との意見交換を行い大学教育に求められる具体的な事柄について課題を整理します。
3. 研修企業： 株式会社内田洋行
4. 開催日時： 平成31年3月13日(水)
5. 開催場所： 株式会社内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS 東京都中央区新川2-4-7
6. 参加者数： 22名
7. 参加費： 無料

プログラム

- 13:00 **会社概要と事業領域の紹介**
株式会社内田洋行の会社概要・事業等について紹介します。
- 13:20 **UCHIDA ライブオフィス見学**
働き方と働く場の革新「Change Working」を実践し、高い生産性と躍動的なワークスタイル、省エネルギーの両立に挑戦している「UCHIDA ライブオフィス」や時代の要請に応じて柔軟に化できる ICT 活用空間などを見学します。また、大学のアクティブ・ラーニングスペースの豊富な事例を紹介するとともに、新たにリニューアルしたフューチャークラスルーム®を見学・体験します。
- 14:30 **「内田洋行」が求める人材像について～採用基準と社員教育プログラム等の紹介～**
内田洋行の社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる人材育成の考え方や仕組みを紹介し、意見交換を行います。
- 15:20 **学校における教育ビッグデータの活用の可能性について ～CBT 調査等、各種の実証研究からの考察～**
教育総合研究所では、Computer Based Testing (CBT) の実施や、遠隔教育システムの実証、情報活用能力調査等、国や地方公共団体と各種の実証研究を進めてまいりました。実証研究を通じて得られた知見と「教育ビッグデータ」の活用の可能性について紹介するとともに意見交換を行います。
- 16:10 **システムエンジニア・営業業務の紹介と若手社員との意見交換**
一般企業や文教市場のシステムエンジニア及び営業若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT 企業の最新の課題や実態を発表。また、内田洋行から求めるシステムエンジニアに関する人材像、キャリアアップについての考え方などを紹介し、後若手社員との意見交換を行います。
- 17:10 **終了**

8. 実施結果

研修終了後のアンケートでは、本研修を「他の教員にも紹介したい」9割、「授業に役立つ」が9割弱であった。

〔特徴的な意見〕

- ① 企業における研修制度など人材育成の取り組みは授業を行う上で非常に参考になった。
- ② 多くの教員は企業での就業経験がないので今後は教員も学生のインターシップの様に自ら体験をする必要があると思った。FD 研修などで教育のために社会と連携する能力を高める必要があるのではないかな。
- ③ 若手社員から大学で役に立った教育として「多様な人やモノとの関わる学び」や「自ら考え解決に取り組む学び」が紹介され参考になった。教員は学生に疑問を与え、考えさせる授業が必要と思う。
- ④ 企業現場研修を通じて企業や他大学の教員と接点を持つことで、協同研究を始めるきっかけが生まれた。このような取り組みを継続してほしい。



(研修・若手社員との意見交換風景)